

はじめに

私たちをとりまく環境は、日常生活に係る地域の環境問題から、酸性雨をはじめ、オゾン層の破壊や地球温暖化といった地球規模の環境問題まで、様々な形で存在しています。

とりわけ、地球温暖化問題は、病気で言えば自覚のないまま進む”成人病”といわれ、人類が、このままのエネルギー消費活動を続けていくなれば、現在15℃に保たれている地球表面温度は、21世紀末には1～3.5℃上昇するといわれています。それによる種々の影響が懸念され、氷河が溶けて10～100cm海面が上昇したり、異常気象が多発するといわれています。

この温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガスの2000年以降の排出削減を決める、人類の未来を左右する極めて重要な国際会議、気候変動枠組条約第3回締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）が1997年12月に京都で開催されました。

その中で、削減目標を具体的数値として合意できたことは一定の評価ができるものの、米国の「合意すれど削減せず」、また、排出量が多い中国をはじめとする開発途上国の参加が先送りされたこと、更に、森林の吸収分を差し引くという「ネット方式」、あるいは、削減チェック方法の不明な点など、抜け穴があることも事実であり、今後の課題は大きいといえます。

このような中で、私ども研究所職員一同といたしましても、環境行政の科学的・技術的中核として、これまでもまして、多種多様化する市民ニーズに応え、複雑化する社会変革に対応するため、一層の科学的知識と技術の研鑽に努め、化学物質を初めとする身近な環境問題から地球規模にわたる環境問題までの幅広い調査研究に取り組み、よりよい環境を育てまいりたいと考えております。

本年報は、1996年度の業務概要と調査研究をとりまとめたものです。ご高覧のうえご意見ご批判をいただければ幸いに存じます。

1998年3月

川崎市公害研究所
所長 佐藤 静雄